

## 卓 話

平成 25 年 4 月 9 日

### 「ロータリーの友について」

2630地区ロータリーの友担当  
地区幹事 加藤伸明様

「ロータリーの友」は、今から60年前の1953年（昭和28年）1月に創刊されました。これは、その前年の7月から日本の地区が2つに分割されることがきっかけでした。それまで一つの地区として活動してきた日本のロータリーは、会員、クラブ数の増加に伴い、東西の2地区に分割されることになり、別れても連絡を取り合い、互いに情報を共有するための機関紙として企画されたとのことです。ちなみに創刊のための準備会が1952年8月岐阜・長良河畔の大竹旅館で開かれたという記録があります。



この大竹旅館の会議では、① 1953年1月から毎月発行する。②東京で発行する。③ 定価を50円とし、広告を取る。④ 名称を「ロータリーの友」とする。⑤ 体裁は横書きとする。ということなどが決められました。

「ロータリーの友」は縦書きと横書き、左右両方から読み進められる珍しい体裁ですが、創刊当時は全会員による投票で横書きと決められたそうです。その後、会員が投稿する俳句、短歌、川柳、などを縦書きで掲載したところ、横書き、縦書きが混ざった紙面で読みにくくなってしまい、1972年思い切って現在のような体裁に変更されました。

原則的に横書きは、RIの方針や地区、クラブの活動紹介など、いわばロータリーの公式の活動を紹介しています。一方、縦書きは、会員のコミュニケーションの場、基礎知識を広めてもらう場として、会員からの投稿を中心に掲載しています。

RIの細則には、すべての会員がRIの機関雑誌「THE ROTARIAN」またはRIの理事会が承認したロータリーの雑誌の購読者とならなければならない。と定められています。このRIの理事会が承認した本が、国際ロータリー公式地域雑誌ということになり、日本では「ロータリーの友」が1980年7月号から認定されています。ですから日本の会員はすべて「THE ROTARIAN」又は「ロータリーの友」を購読する義務があることになっています。これは、会費の納入、例会の出席に次ぐロータリアンの三大義務の一つでもあります。

全世界には公式地域雑誌が31誌ありますが、日本の「ロータリーの友」はアメリカの「THE ROTARIAN」の50万部に次ぐ9万8千部の発行部数で第二位となっています。

そんな「ロータリーの友」は“読まれないベストセラー”などとよく言われますが、面白い読み物の本というより、読者には日本におけるロータリーの機関紙、情報誌という性格の本であることを認識してもらいながら、制作スタッフは、これまでもモノクロをカラー印刷に、用紙を光の反射をおさえるマット紙に、活版印刷から写植に替え文字を大きく、B5サイズからA4サイズへ紙面を拡大、そして2003年から「ロータリーの友」のホームページを開設など、読みやすい紙面になるような様々な改革に取り組んでいます。又表紙の写真を始め、読者の投稿によるページを多く設け、より親しみやすい機関紙となるよう、読者から発信される様々な情報を待っています。